



かみなりにはどんな種類があるの

夏の午後においかみなり

地面が太陽の光で激しく熱せられ、地面近くで暖められた、湿った空気が上昇（高くなる）します。その上、上空に特に冷たい空気があると、積乱雲（かみなり雲、入道雲）ができます。このときに起きるかみなりを、熱雷といいます。夏の午後に起きるかみなりはほとんど、このかみなりです。

前線にできるかみなり

冷たい気団（温度や湿度が、ほぼ同じ空気のかたまり）の勢いが、暖かい気団より強いとき、冷たい気団は、暖かい気団をおしのけるように進み、前線（暖かい気団と冷たい気団の境目が、地表とふれるところ）が暖かい空気のほうへ進みます。これを、寒冷前線といいます。

このとき、下にもぐりこんだ、冷たい気団に暖かい気団がもち上げられて、積乱雲ができます。このように、積乱雲ができると、かみなりが起きることがあります。

また、温暖前線（暖かい気団が、冷たい気団の上を進む）のときも積乱雲ができて、かみなりが起きることがあります。

このような前線にできるかみなりを、界雷といいます。春のあらしのときに起きるかみなりは、寒冷前線のときに起きるかみなりで、春雷とよんでいます。

（監修・村山 貢司）

